

# 気づかない眼の病気

眼の病気は、自分で気づかないうちに悪化していることがあります。

また、疾患に対して患者さん自身が、正しい知識を持つことが大切です。

眼科の病気で治療が難しいのは、糖尿病網膜症、緑内障、角膜潰瘍です。

この3つの病気について、お話します。

## ■ 糖尿病性網膜症

糖尿病にかかっている期間が長いと、血糖が良くても網膜症が発症します。網膜症とは、眼底の出血や浮腫のことです。残念なことに、年間2000人以上が両眼を失明しています。

重症化する前であれば、レーザー治療や手術で治療は可能です。しかし、「見え方が変だな」と自分で気づいたときには、治療が難しい段階になっていることが多いです。見えなくなっちゃったーとあわてて眼科に来る人が、少なくありません。

糖尿病で治療中の人は、必ず眼科医の定期検査を受けることが必要です。

## ■ 緑内障

40歳を過ぎると20人に1人、とかなり多い病気です。緑内障で失明する人は、糖尿病網膜症よりも多いといわれています。病気が軽い段階であれば治療は難しくありませんが、自分で気づくのは難しいです。市町村の健康検診で早期発見されることが多く、みなさんにぜひ受診していただきたいです。

治療は、眼圧(目の圧力)を下げることです。最近では効果が高い点眼薬が開発されていて、治療がうまくいくようになっていきます。場合によっては、手術やレーザーで眼圧を落ち着かせることもあります。

「治らない」「手術は無い」というイメージは過去のもので、



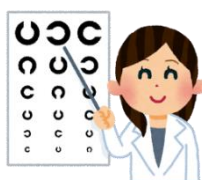
## ■ 角膜潰瘍

角膜(黒目の部分)がバイ菌で化膿することがあります。黒目が白く濁り、激しい痛みを生じます。これを角膜潰瘍といいます。抗生物質が効きにくく、入院治療をすることがあります。治療が遅れると視力が失われてしまいます。

コンタクトレンズが原因の場合が多いです。「装用したまま寝てしまう」「2週間のレンズを3週間使う」など、ちょっとしたミスで、取り返しのつかないことになります。コンタクトレンズは、眼科専門医で購入し、正しい使い方の指導と検診を受けないと危険です。

また、量販店やインターネット通販で扱っているカラーコンタクトは、潰瘍化する可能性が高く、使用は認められません。

眼科の病気は、思いもよらないことで悪化することが多いです。少しでも心配なことがあれば眼科専門医に相談していただくのが良いと思います。



【眼科診療部長 丸山 泰弘】

